

事務連絡  
令和6年11月29日

シルバー派遣会員 各位

公益財団法人いきいき埼玉  
シルバー人材センター連合川越市事務所  
事務所長 原 雄二（印省略）

令和6年度 第8回安全衛生委員会の開催結果について（お知らせ）

シルバー派遣会員の皆様におかれましては、センター運営にご理解いただきありがとうございます。

さて、下記のとおり令和6年度第8回安全衛生委員会をセンターで開催いたしましたので、その内容等お知らせいたします。

#### 記

1. 開催日時 令和6年11月27日（水） 12時00分より

2. 協議内容

(1) 冬に流行する感染症について

- ・別添資料「冬に流行する感染症」を基に影響及び対策等について確認。

3. その他

#### 【産業医より】

① 冬に流行する感染症について

- ・マイコプラズマ肺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルスの3つ同時に発症する人もいる。マイコプラズマ肺炎以外はワクチン接種が有効なので接種を勧めたい。

マイコプラズマ肺炎は特殊な抗生剤が有効であるので長引く咳の症状の時は診察を受けてほしい。気管支喘息に移行する場合もあるので要注意。

オリンピックの開催年（4年周期）で流行するのでオリンピック病とも言われている。

ノロウイルスは感染力が非常に高いので下痢や嘔吐の症状がある時は就業を控えるべき。

とのアドバイスがありました。

#### 4. 連絡事項

##### ① 健康診断の受診について（引き続き）

本年の健康診断のご予定はありますでしょうか？

労働契約法第5条に定められている「安全配慮義務」は発生することから、派遣元事業所として把握する必要があるため、是非健康診断は毎年の受診をお願いするとともに、診断書のコピーをご提出いただきたくお願い申し上げます。

毎年、5月頃川越市からの特定健康診査（ときもいきいき検診）について、皆様にも通知が届いているかと思っておりますのでご検討ください。

##### ② 健康上の悩みなどについて

安全衛生委員会では、産業医を含めた委員会を開催しますので、就業上のストレスや健康上の悩みなど、相談したいことなどありましたら事務局担当まで連絡又は書面にて頂きます様お願いいたします。

※産業医の役割としては、健康診断とその結果に基づく措置、治療と仕事の両立支援、ストレスチェック制度や長時間労働者に対する面接指導などがあります。

##### ③ 自転車保険の加入について

埼玉県では、自転車の利用によって他人にケガをさせた場合に損害を補償できる保険等への加入が義務付けられています。自転車事故で高額な賠償事例がありますので、今一度ご自身の加入している保険の確認をお願いします。

##### ④ 自動車保険（任意）の加入及び保険証券の控えの提出について

派遣会員においては、雇用関係が発生する為、自動車で通勤する場合に保険証券の控えをセンターにて保管させて頂いております。任意保険未加入の方は加入をお願いします。保険証券未提出の方はセンターへご提出をお願いします。

◆ 日増しに寒くなってまいりました。今回の資料をご一読いただき、各自体調管理の徹底をお願い致します。

体調管理の徹底は勿論のこと、就業途上及び就業中の事故ゼロに向けて改めてご認識下さいます様宜しくお願い致します。

公益財団法人いきいき埼玉

シルバー人材センター連合川越市事務所

事務局担当：川崎・河東・土屋

(Tel : 049-222-2075)

# 冬に流行する感染症

 株式会社ドクタートラスト 産業保健部作成

## 目 次

冬＝感染症の流行に注意！ ウイルスの主な感染経路	1
冬に流行する主な感染症 インフルエンザ感染症	2
感染性胃腸炎 溶連菌感染症	3
マイコプラズマ肺炎 会社でウイルスを広めないポイント	4
社内で常備しておきたいもの 万が一のために備蓄しましょう	5
ノロウイルスによる食中毒 ※ 内閣府 食品安全委員会 資料	6

# 冬＝感染症の流行に注意！

## 冬に感染症が流行しやすい理由

◆冬の気温と湿度は、ウイルスにとって最適な環境



低温・低湿度な環境  
(温度 16°C以下 / 湿度 40%以下)は、  
ウイルスが長く生存できます。

感染力が強い

◆冬は免疫力が低下しやすい

夏場よりも積極的に  
水分を摂取しないため

冬の寒さ



外気の乾燥



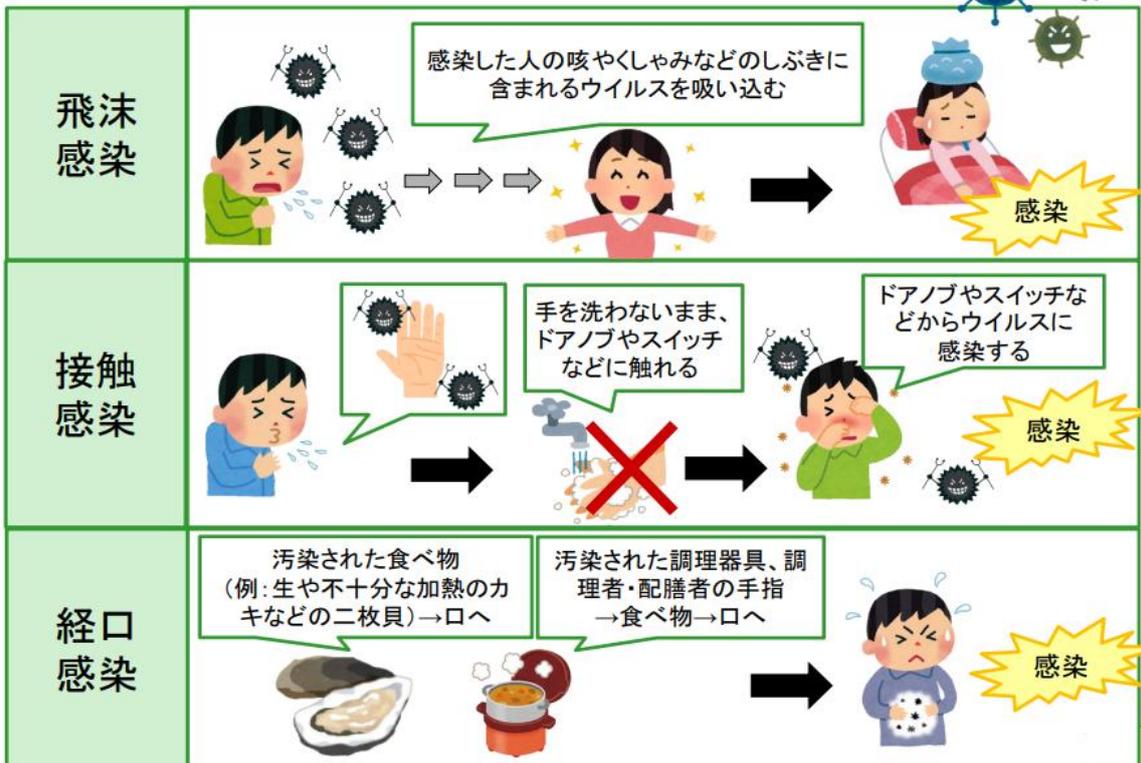
体内水分量減少



免疫力の低下



## ウイルスの主な感染経路



# 冬に流行する主な感染症

毎年約1千万人、約10人に1人が感染しています

インフルエンザ感染症

インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症

感染性胃腸炎のなかで、3~5割はノロウイルスが原因といわれています

感染性胃腸炎

ノロウイルスなどの病原体を原因とする感染性の強い胃腸炎

溶連菌感染症

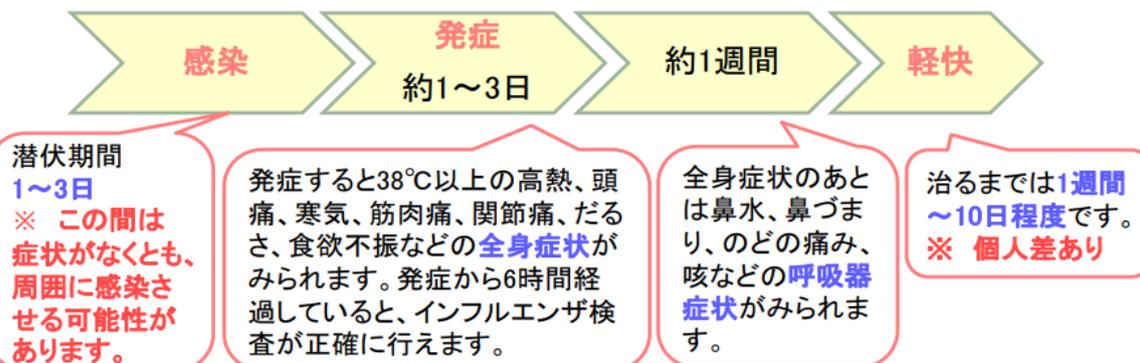
A群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症

マイコプラズマ肺炎

肺炎マイコプラズマという微生物の影響でおこる呼吸器感染症

# インフルエンザ感染症

## ■ インフルエンザウイルスに感染すると



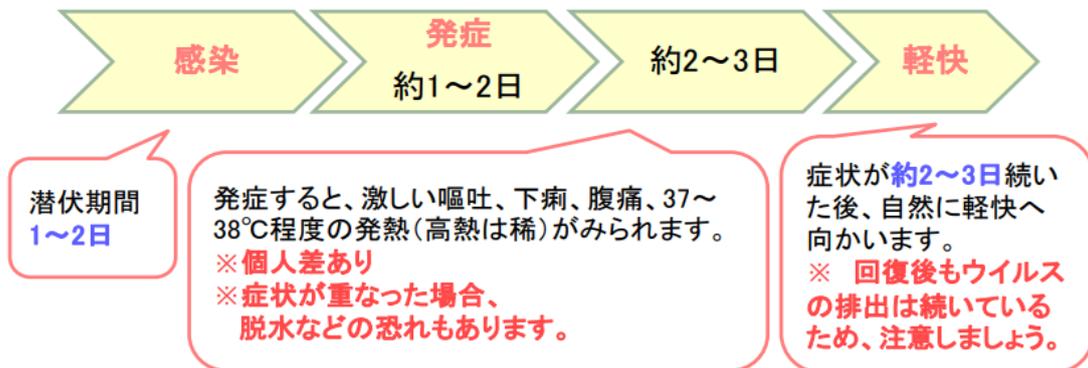
## ■ 感染を防ぐためのポイント

- \* 人が多く集まる場所では**マスク**を着用し、**うがい・手洗い**を徹底する
- \* 栄養と休養を十分にとる
- \* 室内での**加湿・換気**をよくする  
空気が乾燥するとインフルエンザにかかりやすくなります。これは、喉や鼻の粘膜の防御機能が低下するためです。湿度は**50~60%**が適切です。



# 感染性胃腸炎

## ■ ノロウイルスに感染すると

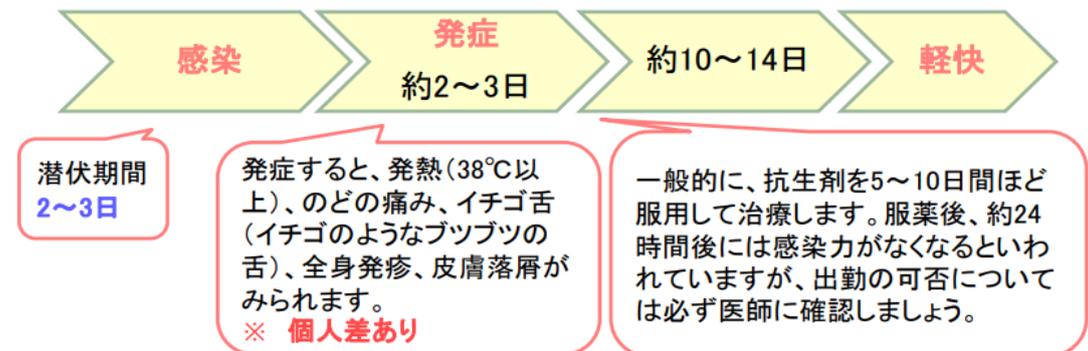


## ■ 感染を防ぐためのポイント

- \* 人が多く集まる場所ではマスクを着用し、うがい・手洗いを徹底する
- \* 消毒用エタノールで手指消毒をする
- \* ドアノブ、パソコン(キーボード、マウス)、トイレ(便座、手すり)を塩素系消毒液で消毒する
- \* 食器や調理器具は、洗剤で洗浄、できれば沸騰した熱湯で加熱消毒する
- \* 加熱を要するものは、85~90℃で90秒以上加熱する
- \* 生の食材と加熱済みの食材は、分けて調理または保存する

# 溶連菌感染症

## ■ 溶連菌(A群β-溶血性連鎖球菌)に感染すると



## ■ 感染を防ぐためのポイント

- \* 人が多く集まる場所ではマスクを着用し、うがい・手洗いを徹底する

溶連菌は健康な状態で菌を持っている人が多く、まわりへの感染力を持っています。

- \* バランスの良い食事、睡眠をとる

免疫が低下していると、感染しやすくなります。

- \* 同じ食器、タオルを使わない



# マイコプラズマ肺炎

## ■ マイコプラズマ肺炎に感染すると



潜伏期間約2~3週間

発症すると、発熱や頭痛、倦怠感など風邪と同じような症状がみられます。その後、乾いた咳と痰(たん)が少し出て、徐々に悪化していきます。

※ 個人差あり

## ■ 感染を防ぐためのポイント

マイコプラズマ肺炎には、予防接種などの予防法がありません。

- \* 人が多く集まる場所ではマスクを着用し、うがい・手洗いを徹底する
- \* 患者との接触を極力減らす(特に子どもからの感染に注意！)
- \* 人ごみを避ける



マイコプラズマ肺炎患者の約8割は14歳以下です。

※ 症状が軽い場合、感染していることを知らずに感染を広げてしまう場合があります。大人が感染すると、肺炎となり重症化することもあります。

# 会社でウイルスを広めないポイント



- ① 従業員ひとりひとりに日常生活予防を周知、励行
- ② 咳やくしゃみが出る時は、咳エチケット ⇒ 飛沫感染予防

- \* 咳、くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- \* 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。(蓋付きが望ましいです)
- \* 咳をしている人にマスクの着用を促しましょう⇒不織布マスクが推奨されています。

- ③ 速乾性の消毒アルコールの設置 ⇒ 接触感染予防

60~80%濃度の消毒用アルコール(エタノール)などを設置し、職場に入るとき、手洗い時などの手指消毒を習慣にしましょう。

- ④ 環境の消毒 ⇒ 接触感染予防

塩素系消毒液で消毒しましょう。

⇒ドアノブや手すり、パソコン(キーボード、マウス)、トイレ(便座、手すり)などよく触れるところを消毒しましょう。



- ⑤ 感染者が出た場合の対応を確認する

突然の嘔吐などにも素早く対応できるよう、日頃から準備しておき、管理者(衛生管理者、産業保健スタッフなど)も決めておきましょう。

## 社内で常備しておきたいもの

- マスク**  
⇒不織布マスクが推奨されています
- 救急セット**(包帯・ガーゼ・絆創膏・消毒液など)
- 消毒剤**(0.1%次亜塩素酸ナトリウム)
- 除菌スプレー**
- 使い捨て手袋、エプロン、帽子**
- シューズカバー**
- 特殊凝固剤**
- 大小ビニール袋**
- ペーパータオル**
- バケツ**



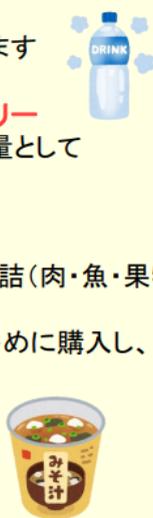
赤文字の備蓄品が一式揃った商品もあります。  
一式揃っている商品の場合、1～2キットを目安に常備することをお勧めします。

社員が突然嘔吐した場合などに備えて、嘔吐物を処理できるよう準備しておくとい良いでしょう。



## 万が一のために家でも備蓄しましょう

- マスク**  
⇒不織布マスクが推奨されています
- OS1(経口補水液)またはOS1ゼリー**  
⇒500～1000ml/日を摂取目安量として購入しておきましょう。
- 食料品**  
⇒レトルトおかゆ、即席スープ、缶詰(肉・魚・果物など)があると便利です。  
備蓄できる食料品は普段から多めに購入し、常に「**買い置き**」をしましょう。
- 消毒剤、除菌スプレー**
- 使い捨て手袋**
- 紙皿・紙コップなど使い捨てできる食器**
- 大小ビニール袋**



1人暮らしの場合、いざという時に動くことができず、買い出しに行けないことがあります。  
特に、**赤文字の備蓄品**を用意しておく、突然の不調時などにも役立ちます。

ご家族と同居している方の場合、他のご家族の方に感染しないよう**感染拡大防止**が重要です。  
ご家族の突然の不調に備えて、日頃から準備しておきましょう。



# ノロウイルスによる食中毒に注意！

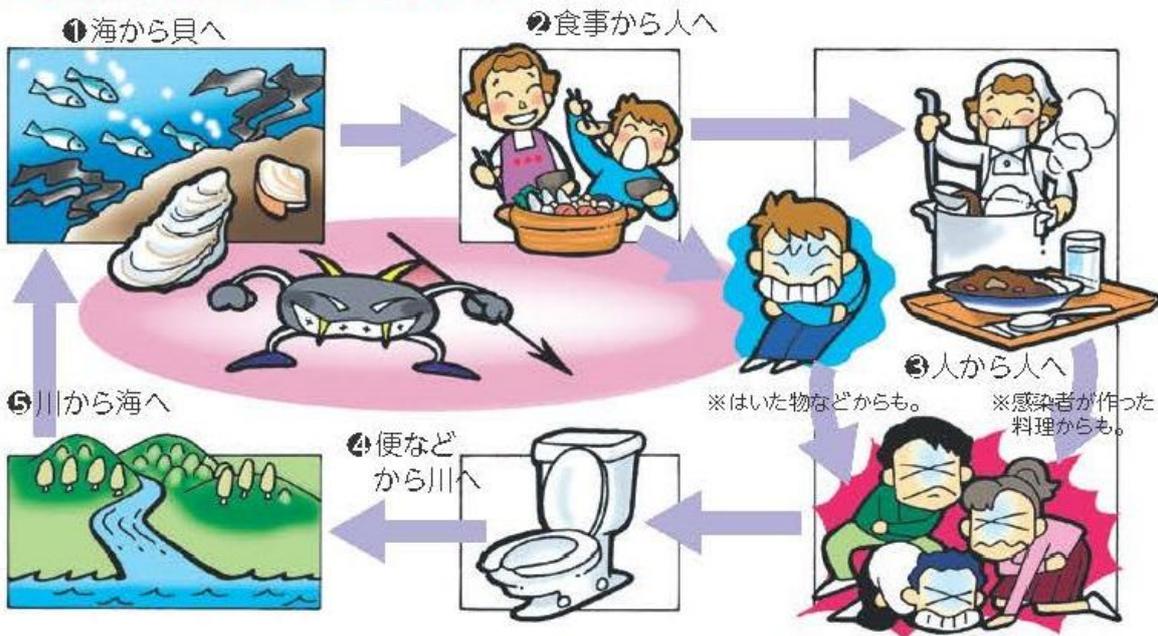
ノロウイルスによる食中毒や感染性胃腸炎は、一年をとおして発生していますが、特に冬に流行するとされています。

ノロウイルスは、少量でも手指や食品などを介して口から感染（経口感染）し、下痢、おう吐、吐き気、腹痛などを起こします。また、一度感染した人でも、繰り返し感染することがあります。特に子供や高齢者、免疫の低下した方などは、ノロウイルスに感染した場合に症状が重くなることがあるので、ご家庭でも特に注意が必要です。

また、ノロウイルスに感染した人は、症状が治まっても、または、症状が出なくても、長い時は1カ月ほどウイルスを排出し続けていることがあるとされ、この点についても注意が必要です。覚えておきましょう。

ノロウイルスといえば二枚貝を原因食品として思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれませんが、最近の傾向として食材自体にノロウイルスがあることが原因ではなく、食品を取り扱う人がノロウイルスを保有していて、調理や配膳過程においてそこから食品を汚染してしまう場合もあり、様々な食品がノロウイルスに汚染されてしまう可能性があります。

## かんせん 感染は、どのように広がる？



# 家庭でできる食中毒予防のポイント☆

## ノロウイルスによる食中毒を防ぐには ('ω')ノ

◇ 加熱 ◇ 手洗い ◇ 消毒

**加熱が必要な食品は中心部までしっかりと「加熱」しましょう**

中心温度85～90℃ 90秒間以上加熱してたべましょう！



**「手洗い」をしっかり行いましょう**

特に食事前、トイレの後、調理前後は必ずよく手を洗いましょう。  
(石けんでよく洗浄し、すすぎは流水で十分に。2回繰り返すとより効果的。)



**調理器具や調理台は「消毒」して、いつも清潔にしましょう**

まな板、包丁、食器、ふきんなどは使用后すぐに洗うとともに、十分な煮沸消毒が有効です。また、次亜塩素酸ナトリウム(200ppm)で浸すように拭いて消毒することも有効です。



## ノロウイルスによる食中毒の原因 ((+\_+))

人から人への感染が最も多いことから、周りの方々とも声をかけあって、一緒に手洗い、調理器具や調理台の消毒を徹底することが重要となります。

ノロウイルスには、塩素系の消毒剤が有効とされています。

石けんでの手洗いは、手指に付着したウイルス量を減らすためには最も効果的な方法ですので、調理前、食事前、トイレに行った後は必ず石けんで手を洗いましょう。汚染された調理器具や調理台は、消毒用エタノールや逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）などが用いられることがありますが、ノロウイルスを不活化する方法としては、次亜塩素酸ナトリウム ※（塩素系漂白剤）、熱湯があります。詳しくは ノロウイルスの消毒方法 をご覧ください。

おう吐物など感染性のあるものを扱う際は、使い捨てガウン（エプロン）、マスク及び手袋を利用し、ビニール袋などに密閉した上で、廃棄しましょう。床や壁にもおう吐物が飛び散った場合は、ペーパータオルや市販の凝固剤等を使用し、静かにふき取った後、同じく次亜塩素酸ナトリウムで浸すように床をふき取りましょう。

※ 商品の成分に塩素系漂白剤と記載されています。次亜塩素酸ナトリウムは手指消毒に用いることはできず、使用できない調理器具がありますので、使用上の注意をよく読み、使用できない場合は煮沸消毒を行うか、次亜塩素酸ナトリウムが使用できる調理器具に切り替えるなど工夫してみましょう。